

海洋のオアシス サンゴ礁



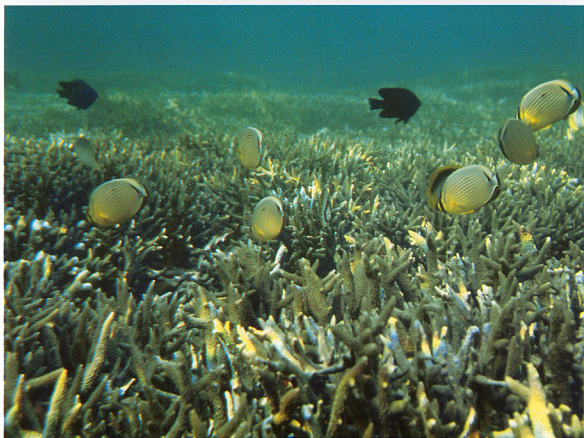
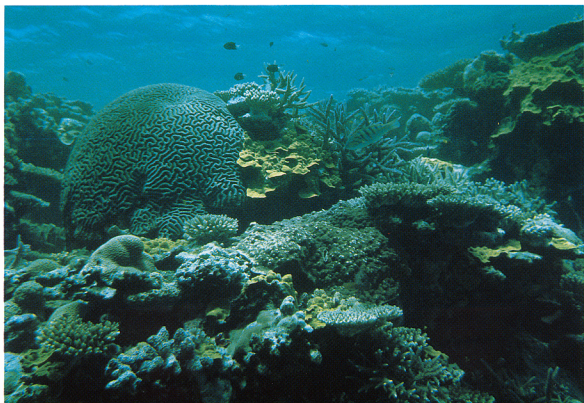
1. ミクロネシア ヤップ島の堡礁。左手の島から礁湖(ラグーン)をへだてて右手に幅2 kmの堡礁が続く。

サンゴ礁は、南北両緯度30度以内の熱帯・亜熱帯の海域に分布する。サンゴ礁を作る造礁サンゴはイソギンチャクと近縁の動物であるが、イソギンチャクと異なる点は、それが何百・何千も集まって炭酸カルシウム(CaCO_3)骨格を作ることと、その体内に光合成を行う植物(褐虫藻という単細胞の藻類)を大量に共生させていることである。骨格は積み重なって南の島を縁どるサンゴ礁となり、光合成によって生産された有機物は、サンゴとサンゴ礁を棲み家とする魚類・甲殻類などの多様でほう大な動物を養っている。サンゴ礁における単位面積あたりの有機物の生産量は熱帯雨林にも優り、サンゴ礁は海洋のオアシスにたとえられる。つまりサンゴ礁は、炭酸カルシウム骨格の形成と有機物の生産という2つの経路を通じて CO_2 を固定している。詳しくは本誌6-16ページを参照。

(海洋地質部 茅根 創)



2. スクーバによる潜水調査の様子。



3. (上)石垣島米原沖サンゴ礁縁の景観。

4. (下)奄美大島サンゴ礁礁池の枝状ミドリイシ群体とミスジチョウウオの群れ。